

越境し、学び合いながら目指す 「これからの学校づくり」

現在進行中の教育改革は、これからの社会を生きる上で必要な資質・能力の育成を目的としているが、その目的を果たすために求められているのが「カリキュラム・マネジメント(以下、カリマネ)」の実現だ。次期学習指導要領の実施を3年後に控え、カリマネ推進上の課題も顕在化し始めている。



動画はこちら

なぜ、カリマネが求められているのか

カリマネは、これからの社会で求められる資質・能力の育成を目指す上で、必要不可欠な営みだと言われています。例えば、「主体的に学んで必要な情報を判断し、よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力」(※)といった資質・能力は、特定の教育活動のみで育成されるものではありません。



株式会社
ベネッセコーポレーション
VIEW21編集部
統括責任者
柏木 崇
かしわぎ・たかし

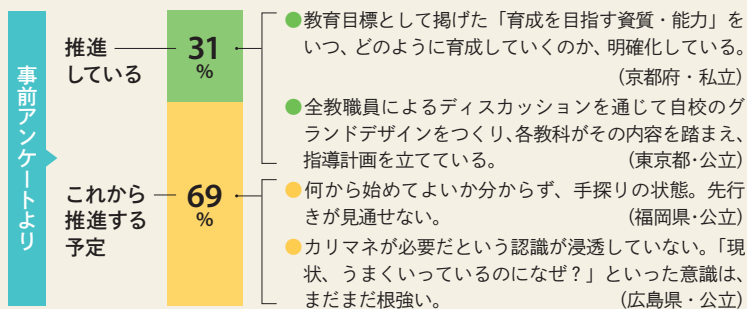
なく、各教科等の学習や学校行事、ホームルーム活動など、それぞれの教育活動を通じて育まれる力が統合されて発揮されるものです。そのため、各教育活動と教科等横断的な学習の両方の充実が求められ、教科や分掌、学年等が連携した教育課程の編成・実施・改善が必要になります。その状態を実現する営みがカリマネです。

ただ、先生方にお話を伺うと、「管理職や推進担当以外はカリマネへの関心が低い」「誰を、どのタイミングで巻き込めばよいか分からない」といった悩みをよく耳にします。また、カリマネの第一歩であり、最も重要な工程である、資質・能力ベースの学校教育目標の策定について

も、「教育目標が抽象的な表現にとどまっている」「自校ならではの内容になっていない」など、課題を抱えている学校も少なくありません。

そのような状況の中でカリマネを推進する現場の先生方への支援として、『VIEW21』がたどり着いた1つの答えが「越境する学び」であり、先生方が学校の違いを超えて対話をし、カリマネについての理解や考えを深める機会として、2019年3月に実施したのが、カリマネをテーマにしたワークショップです。今号は、ワークショップで提供された知見と参加者の先生方から表出された問題意識や思いなどを基に、カリマネの意義と課題、そして具体的な方策をひも解いてまいります。

参加者に聞く「自校のカリマネの進捗状況」(参加者42人への事前アンケートより)



ワークショップへの期待 カリマネの推進において、現場の教師が持つニーズとは？

- 同様の課題意識を持つ他校の先生方と意見交換しながら、自校の実践工程表を作成したい。 (京都府・私立)
- カリマネを推進する上で考えていくべきポイントを把握したい。 (熊本県・公立)
- カリマネの推進における具体的な問題点とその解決事例を、他校の先生方から聞きたい。そして、自校でどのような姿勢で、どのように同僚を巻き込み、最終ゴールをどこに置くのかを見いだしたい。 (広島県・公立)
- カリマネをきっかけに、本校の包括的な指導体制を見直していくことで、生徒の学びがもっと豊かになるような学校をつくりたい。 (徳島県・公立)
- 全教職員がカリマネについて理解を深め、行動できるような様々な取り組みを、他校から学んで、持ち帰りたい。 (東京都・公立)
- 学校の課題を共有した上で、教師一人ひとりが自分の持つ力を適材適所で発揮しながら、生徒の可能性を希望進路の実現につなげることができる体制を構築するノウハウを学びたい。また、全国各地の先生方と先進的な事例の情報交換ができることを期待している。 (宮城県・公立)



ワークショップでの成果 カリマネの推進において、現場の教師が得た気づき、観点はどのようなものだったのか？

- 一気に学校を変えることは難しいからこそ、話ができる仲間と少しずつカリマネに取り組んでいくこと、対話ができる相手をたくさんつくることが大事だと分かった。 (広島県・公立)
- 様々な高校の先生と話す過程で、どのような学校においてもカリマネが必要であることを再認識した。学校に戻って、現在取り組んでいるカリマネの意義を学年会で説明した。 (熊本県・公立)
- 細やかに配慮されたワークショップの運営や方向性で、終始有益な対話がなされ、様々な化学反応が起き、対話の中からそれぞれの答えを見つけ出すことができた。前向きな先生方が集まると1つのきっかけで進み始める駆動力のすごさを予感した。学校の中でも同じことが起こせれば、もっと楽に、よい方向を目指せるのではないだろうか。 (徳島県・公立)
- 立場や環境の異なる先生がグループ内にいたことで、いろいろな視点からカリマネの進捗状況を見ることができた。学校に帰って、管理職と教務部長、進路部長にワークショップの報告を行った。各学年の学年主任、副主任とも内容を共有し、生徒の強みと弱み、生徒につけさせたい資質・能力とその理由を、各学年の先生方に考えてもらうことにした。それらを集約し、まずは1学期中に学校教育目標の策定に取り組む予定である。 (三重県・私立)
- 同じ悩みを持つ先生と知り合えたことがよかった。他の学校の先生だということもあって、率直に相談できた。 (和歌山県・私立)
- 教育目標はその達成度を評価できる仕組みとセット